



令和8年 3月 31日

岩倉市議会

須藤智子様

日比野走

研修受講報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和8年 1月28日(水)
- 2 研修先 リファレンス西新宿 地方議員研究会 予算審議を武器に変える
- 3 復命事項 別紙のとおり

・ 予算書は全部読まなくていい→

- 1 アクション 個々の政策事業の有効性、効率性の確認
- 2 ビジョン 目指す姿の道のり そのための優先順位付け
- 3 枠組み 収支均衡、財政規律、

2 将来像の実現

1 総合計画 2 政策推進プラン 3 市政取組方針に基づき、総務企画局で調整

どんなまちづくりを目指すか

- ・ 政策順位は優先順位
- ・ 「総合計画の推進に資する」とは
- ・ 総合政策評価と予算関係(実証と予算がバランスとれているか)
- ・ 10年後の市民に臨まれるものか

3 枠組み

- ・ 中期財政見通し→作っていない自治体はおかしいのですぐに言おう。
- ・ 財政健全化指標はレッドカード
- ・ 見えない時限爆弾の可視化(公共施設などの試算)が出来ない、加算できないこと→大規模改修の想定を置いた上で、財政の説明してもらおう。
- ・ 「聞いてないよ」にならないように、前述の話を聞いておこう。

チェックポイントをチェックせよ

- ・ 予算書以外の配布資料は？ 分科会資料 各部重要施策、記者発表等

わからなければわかるように

資料体制は慣例

資料請求、会派説明会、個人勉強会の活用

議案送付がスタートでよいのか(福岡市では1週間かけて会派ごとのレクチャー)

- ・ 質問してほしくない(仕事が増える、聞かれたら嫌なことがある。)
- ・ それでも質問してもらったほうが実は好都合(現場と首長の意思疎通確認のため。)
- ・ 議会は劇場。議員も当局も舞台に立つ役者
- ・ ぶっつけ本番より、当局と稽古せよ。

質疑という好機逃すな

- ・わかりにくい話題を分かり易く
- ・勉強したことが血肉になり評価になる
- ・組織の意思確認の機会
- ・ガチンコでなくても構わない

議会の質疑は誰の為に

- ・反対よりも聞く野党の質問(あくまで答弁は市民への約束。何年たっても議事録に残りつづけ、その議員でなくなっても、別の人引き継ぐことも。)
- ・未来の市民のための対話のために
- ・議会で政策を動かすか→(繰り返される質問中のやりとり等その過程が、市民当局両方を突き動かすことも?)
- ・要望が政策が変わるとき
- ・一目置かれる議員とは(特定の分野と専門性を究め、毎回議会で取り上げていけばそのうち認められるように)

予讃審議を武器に変える

年度間の財政調整する最後の切り札

決算剰余金の半分積み立て

予算編成時の財源不足に充てる一般財源

自身の望む政策の優先順位上げるには

- ・予算査定時に要望するのは遅すぎる
- ・進捗の遅い施策事業の加速には(事務事業、施策評価)
- ・予算編成方針はいつ決まる
- ・総合計画、部門別計画の改定時期を捉えて、議員としての意見を入れていこう。

地方交付税

- ・国が算定する各自治体の基準財政需要額と基準財政収入額の差額に対して配分する地方交付税の原資が不足する場合に「各自治体が特例として発行する地方債」
 - ・元利償還金相当額について後年度の基準財政需要額に算入(国から地方への割賦払い)
- 将来の交付税財源の先食いによる財源保障
(実は国の腹は全く痛んでいない)
- ・地方交付税は財源保障の仕組みではない(財源を均す)
 - ・有利な起債の裏側で損するのは先食いできた世代。
 - ・原資が増えないのに財政措置するという意味は?
 - ・地方は国の誘導する施策の必要性を疑え(合併特例債)

給食費無償化の話が煮詰まらないまま進んでしまうと、個別算定経費が包括算定経費の範囲を狭め結果的に自治体財政の柔軟性を減らしていくことに。

ふるさと納税

経常収支という考え方 毎週の収入で支出を賄う

- ・ふるさと納税は臨時財源(毎年入ってくる保証のない不安定なモノ)
それで給食費無償化(経常支出に充てる)していくのは…。
- ・そもそもふるさと納税とは。自治体域外からの人口の乏しい地方の財源の代替するものとするもの→スポンサーの為の事業は市民の為になるのか？

稼がない自治体

- ・自治体の目的は収益でなく市民福祉向上
- ・過熱するふるさと納税市場に散見されるガバナンス崩壊
- ・「対話」「協働」による信頼関係
(福岡の中小企業 大学の授業の中で、講義する。)

経常収支比率に惑わされるな

- ・財政の硬直度を示す「経常収支比率」
毎年見込まれる収入で毎年見込まれる支出を賄うことができているか
「経常収支比率の改善」を目標にしない
財政健全化は目的ではなく政策推進の手法である。他都市並みになることに意味があるのか(やりたいことをやるために、やれ。)

- ・経常収支比率を他都市並みにする？→自治体のありようは千差万別
- ・比較するなら他都市ではなく、過去の経常収支比率悪化の原因を把握分析に努める。
- ・悪化の要因を取り除くことが処方箋ではなく、経常的経費の増大は過去の政策決定の結果
- ・過去の否定ではなく優先順位の最適化を

他都市に比べて特定の費用が高すぎるという批判

福岡市の人件費が低い理由

その分物件費が高いという批判は正しくない

- ・各自治体によってさまざまな事情があるのだから、施策事業の横並びでなければならない
ルールは存在しない。追いつけ追い越せの自治体間競争の名残だが、そこで競ってもしょうがない。行革で政策を見直す競争に勝者はいない。

福岡市内の殆どに文化財が埋まっていて、吝嗇賃金が多かった。

今年度の給食費無償化の議論でわかったこと

- ・地方自治における国と地方の役割分担とは
- ・地方の税財源偏在を論じる前に(東京から地方税に流すか?)
- ・地方制度調査会の議論が始まる →地方の実情を踏まえた議論になるよう

地方自治体、議会ができることは何か

所感

本研修では、財政指標の読み解き方や国・自治体の役割分担について重要な示唆を得た。特に、経常収支比率を他都市と単純比較しても自治体の実態は把握できず、過去の政策判断の積み重ねを踏まえた分析が不可欠である点は印象深いと感じた。また、自治体固有の歴史的・構造的要因を理解する必要性を、福岡市の人件費を例にして教わることができた。現在課題となっている給食費無償化のような経常的支出を、国からの指令で行うことは自治体財政の柔軟性を損なう可能性があるという意識をもつべきであると考えている。